

## 建設工事における予定価格及び履行確実性評価価格の算出方法について

## 1. 履行確実性評価価格を設ける対象工事

雲仙市が発注する競争入札に付する建設工事（建設業法（昭和24年法律第100号）第2条第1項に規定する建設工事をいう。）のうち、総合評価落札方式に係る入札で履行確実性評価方式を適用した工事に対して履行確実性評価価格を設けるものとします。

## 2. 履行確実性評価設計価格（税抜き）の算出

履行確実性評価設計価格（税抜き。以下同じ。）の算出方法を以下のとおり改正しました。

現 行		改 正	
区 分	履行確実性評価設計価格	区 分	履行確実性評価設計価格
土木工事	設計金額（税抜き）の 90%	全ての建設工事	設計金額（税抜き）の 90%
鋼橋及び鋼製の横断歩道橋等の工事、製作工事			
建築工事（建築関連の電気設備工事、機械設備工事を含む）			
土木関連の電気設備工事、電気通信設備工事、機械設備工事			
建築関連の搬送設備工事及び解体工事	設計金額（税抜き）の 80%		

## 3. 予定価格（税抜き）について

設計金額（税抜き。以下同じ。）に乱数（事前ランダム係数）を乗じて算定した額を予定基本価格（税抜き。以下同じ。）とし、予定基本価格に乱数（公開ランダム係数）を乗じて算定した額を予定価格（税抜き。以下同じ。）とします。

$$\text{予 定 価 格} = \text{予定基本価格} \times \text{ランダム係数(a)}$$

$$\text{予定基本価格} = \text{設 計 金 額} \times \text{ランダム係数(甲)}$$

## 4. 履行確実性評価設計価格（税抜き）について

上記2. で算出した額（履行確実性評価設計価格）に乱数（事前ランダム係数）を乗じて算

定した額を履行確実性評価基本価格（税抜き。以下同じ。）とし、履行確実性評価基本価格に乱数（公開ランダム係数）を乗じて算定した額を履行確実性評価価格（税抜き。以下同じ。）とします。

履行確実性評価価格 = 履行確実性評価基本価格 × ランダム係数( b )

履行確実性評価基本価格 = 履行確実性評価設計価格 × ランダム係数( 乙 )

## 5. 履行確実性確保価格（税抜き）について

上記 2. で算出した額（履行確実性評価設計価格）とし、ランダム係数は適用しません。

履行確実性確保価格 = 履行確実性評価設計価格

## 6. 数値の取扱い

予定価格、予定基本価格、履行確実性評価価格、履行確実性評価基本価格及び履行確実性確保価格は 1,000 円未満の金額は切り捨てるものとします。

## 7. ランダム係数の範囲

事前 ランダム係数(甲) 0.999～1.000 (－0.1%)

ランダム係数(乙) 1.000～1.001 (+0.1%)

公開 ランダム係数( a ) 0.999～1.000 (－0.1%)

ランダム係数( b ) 1.000～1.010 (+1.0%)

※ランダム係数は、パソコンにおけるランダム関数に基づき算出された小数点以下 8 位の任意の数値です。

※ランダム係数(甲)及びランダム係数(乙)は公表しません。

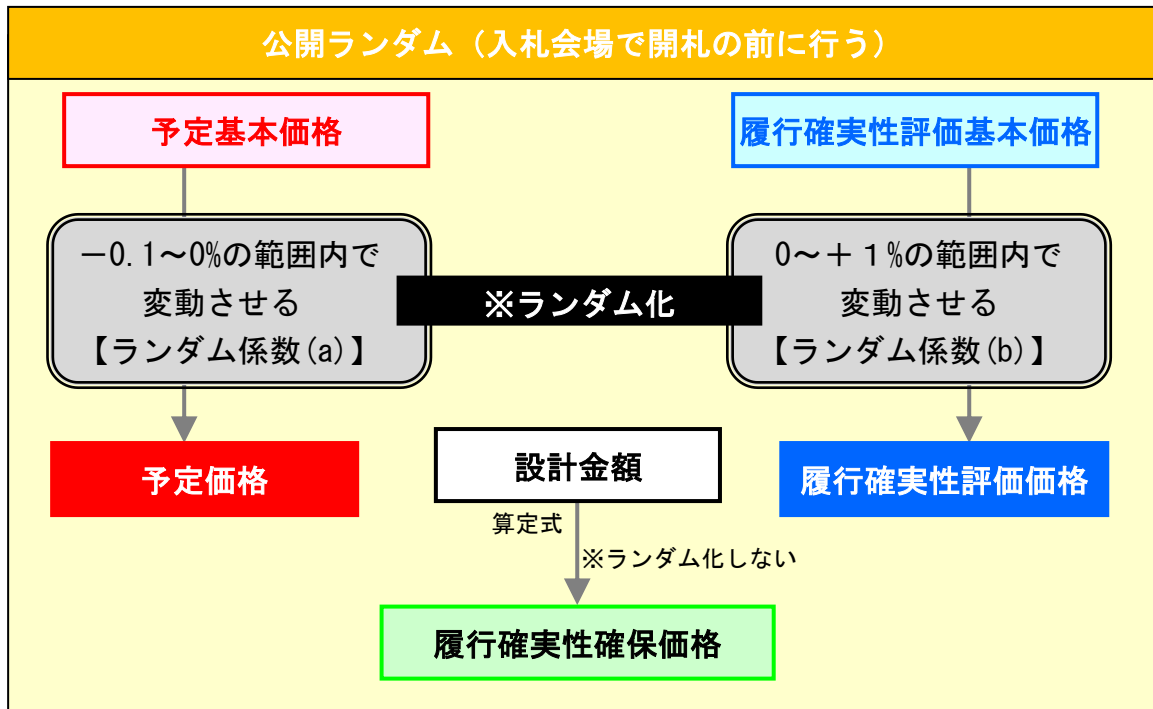
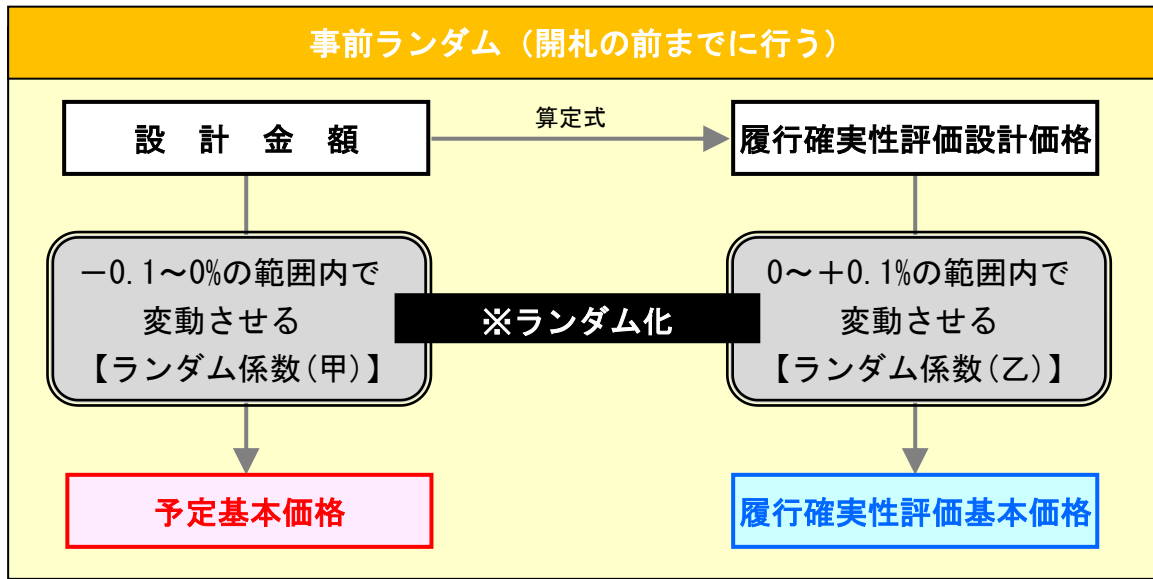
※開札後、ランダム係数( a )及びランダム係数( b )は公表します。

## 8. 適用時期

令和 4 年 4 月 1 日以降入札公告もしくは入札執行通知を行う競争入札より適用します。

# 予定価格等のランダム化による決定の概要図

## 履行確実性評価方式【建設工事】



※パソコンによる公開ランダム化について

予定価格はランダム係数(a)、履行確実性評価価格はランダム係数(b)を使用します。

(例) 履行確実性評価価格の場合

$$\text{履行確実性評価価格} = \text{履行確実性評価基本価格} \times \text{ランダム係数(b)}$$

ランダム係数

- ・暗号化などのセキュリティ強化に使われる「乱数」を利用して決定しています。
- ・100万通りの値の中から無作為に抽出されるので予測不可能です。